初教 KAWARABAN かわらばん

第2号
2000.8.1
広島文教女子大学
教育学会
発行

巡検でつながれ!!伊藤研

伊藤　裕康（社会専修教員）

2月26～27日に、下関・萩方面を巡検した。参加者は部分参加も含め、ゼミ生6名（4年2、2年4）、理科・情報・教育のゼミ生外の4年7名、院生1名、OG8名（14期生大田、金築、小玉、増田、福本、松隈、信田、小山）。内容は、幕末維新関係の史跡見学、総合的な学習の研究会への参加、OG信田祐子さんの生活科授業の参観とその検討、授業構想発表（ゼミのまとめ）である。

26日午前は文関小で、信田さんの授業を参観。午後は下関講話条約ゆかりの日清講話記念館等、明治時代の史跡を見学。夜は火の山ユースで、河豚のフルコースを堪能後（1泊2食で8,190円）、授業検討会。その後、膝突き合わせ、OGが後輩に現場や臨採の様子をレクチャー。午前2時はまわったが。

26日は総合的な学習の研究会へ参加。全国から多くの先生方が参加している姿にやる気がむらむら。会終了間際、電車で萩へ移動。夜は萩ユースで、研究会の学びの交流をし、2年生の幕末維新関係の授業構想の発表とその検討をした。27日は半日かけ自転車で萩市内見学をした。

学校教育現場と大学とを結び、少しでも学校教育に明るい人（実践力のある教員志望学生、学校教育に理解ある将来の母親予備軍）を巡検を始め、4年が過ぎた。巡検は本ゼミ特有の恒例行事となりつつある。96年度は愛知県・東海道五十三次御油赤坂間を歩き、後に長篠の古戦場跡を巡る。社会科著名実践家六角氏の授業も参観した。97年度も愛知県・岡崎で家康関係の史跡見学、瀬戸市で瀬戸物関係の工場等を見学。社会科著名実践家堀井氏の授業と学年合同での生活科授業も参観した。98年度は尾道。郷土史家から尾道の歴史を聞きつつ街を歩く。社会科著名実践家金野氏の授業や理科のITの授業も参観した。

2000年度は大久野島の毒ガス関連史跡の見学と授業参観を考えている。本ゼミ巡検は広く門戸を開いている。参加希望者は連絡を。

参加者一同のスナップ

山口新聞　2000年（平成12年）2月27日

平成12年2月27日の山口新聞より

平成12年度 初教スタッフ（二十二名）

秋山　幹男
新枝　勝
有馬　比呂志
生田　昭人
伊藤　裕康
樋田　ひとみ
沼野　雅子（新任）
岡　利道
金矢　俊乍
川西　正行
神原　雅之
黒柳　宏義
小西　忠男
新宅　雅和
杉山　浩之
田頭　穂積
田村　進
福本　達夫
原田　正治
東　由水枝
吉田　裕午
吉本　裕子（新任）
※前年度退任
兼近　詩子
河相　優（人間文化学科へ）
菅井　直也（人間福祉学科へ）
杉元　邦太郎（人間文化学科へ）
藤土　圭三（本学大学院研究科へ）
山下　美佐子（人間福祉学科へ）

和気あいあい
時には
教育問題を
真剣に討議し
時には
学生商店を
あっぱく語り合う
二十二名の
スタッフです

「初教かわらばん」編集スタッフ

田頭　穂積（編集長）
岡　利道（副編集長）
東　由水枝（初教9期生）
兼近　詩子（初教10期生）
金本　満利子（初教14期生）
山田　悦子（初教14期生、博給担当）

「初教かわらばん」投稿のご案内

会員の皆様の投稿により、本誌はより充実し、より楽しいものになります。投稿を、心からお待ちしております。次の要領で、どしどし原稿をお寄せ下さい。
なお、掲載分につきましては、編集委員会より薄謝をお送りします。

○文量　800字以内（手書き、ワープロどちらでも）
○写真　1～2枚（様子がわかるもの）
○送り先（郵送の場合）
〒731-0295　広島市安佐北区可部東1-2-1　広島文教女子大学人間科学部初等教育学科「初教かわらばん」編集委員会
○送り先（電子メールの場合）　bunkyo1@hiroshima-cdas.or.jp

編集後記

T　ちょっと遅れたけど、第2号完成、オメデトウ!
O　編集長、やきもきさせたでしょう。すみませんでした。白髪が増えたんじゃないですか?
T　いやーぁ、これはトシのせいなんだけどね。
O　失礼しました!
T　今年は、編集委員会をあなたの研究室でやらせてもらうことが多くて、すまなかったね!
O　僕は何の取柄もないんですが、邪魔だけはキレイにしているつもりなんで…。ところで、今回の内容はどうでしたか。
T　手前味噌なんだけど、よかったね!二年目のジンクスなんて、吹き飛ばしたんじゃないかな。
O　編集スタッフは少し減ったんですが、内容は、創刊号に負けないんじゃないでしょうか?
T　編集スタッフのチームワークがより増くなったんだろうね。
O　ということで、第三号以降も、編集長続投でよろしくお願いします!
T　あれれ…、またうまい具合にノせられちゃったなぁ。(笑)
O　ところで、第三号からは、何か特集でも組んでみたいですね。
T　そうそう、僕もそう思ってたんだよ。
O　さっそく、編集委員会の招集のお知らせを作ります!
T　…という調子でやっています。みなさん、特集内容にかかわらず、近況報告の原稿をお送り下さい。スタッフ一同、お待ちしておりまーす。

初教・20才を迎える

学科長　金舛　俊乍

同窓生の皆様におかれましては、それぞれの家庭・職場においてますますご活躍のことと存じます。

初等教育学科は本年度20期生132名を迎えました。文教二の大所帯です。文教に「初教あり」といってよいでしょう。20期生ということは初教は20才。20才といえば人生のうちで、最も華やかで美しく、しかも大きく羽ばたく時期です。今の初教は「若さいっぱい・元気いっぱい・羽ばたく初教」と表現していいでしょう。それでは、初教の学生の声の一端を紹介しましょう。（5月半ば）

1年生…やっと文教の生活に慣れました。広島弁にも慣れました。友達も沢山できました。でも、一人になるとやはり古里が恋しいなあ。90分の講義って長いなあ。早く夏休みが来ないかなあ。しかし、大学生活って案外暇があるんだなあ。

2年生…はたして、自分は先生に向いているのだろうか。こんなにサークルに熱中していていいのだろうか。勉強とアルバイト両立できるかしら。1週間の教育実習（観察実習）楽しみでもあるし、不安でもあるし。8月の野外活動指導法、山キャンにしようか、海キャンにしようか。

3年生…そろそろ将来の進路を考えて勉強しないといけないなあ。教員・公務員・企業、どの職種が自分に適しているのだろうか。最近、どうも生活が乱れているような気がする。しっかりしなくては。9月からの4週間の母校実習に備えて事前学習をしなきゃあ。

4年生…ああ時間が足りない、時間が欲しい。採用試験まで後2カ月。数学が、物理が、教育史が、面接がやるだけやったんだ、あとは持てる力を出すのみだ。そういえば卒論も気になるなあ。今は、一日一日を大切に充実した日々を過ごそう。悔いの残らないように。友との友情も大切にして。

初教のよいところ。それは、学生一人ひとりが目的をもって生活していること。お互いが信頼でき、分かり合える仲間であること。卒業後も友情を温め合っていること。等々、数えきれない「よさ」があります。初教が20才を迎えた今、このような良き伝統を築いてくれた同窓生に感謝すると同時に、この伝統が引き継がれていくことを願っています。初教の更なる発展を祈って。

'00.3.第16期生卒業パーティの1コマ

学生時代は自分を磨くチャンス

板重　千恵子（初教15期生）

早いもので文教を卒業してからもう1年が経ちました。

地元の広島県高田郡吉田町役場に勤務してからの1年間は本当にあっという間の出来事という感じでしたが、2年目になり仕事にも慣れてきて、充実した毎日を過ごしています。

私は企画課に所属し、広報紙の編集・発行、国勢調査などの各種統計調査事務などを手がけています。住民の方と直に接する機会はまだ少ないのですが、役場に来られた方には笑顔で接するよう、心がけています。

大学では、情報教育を専攻しましたが、その過程でパソコンに慣れ親しんだことは、今の仕事で大いに役立っています。

現在、どの職場においてもパソコンは切っても切り離せないものになってきましたが、今の私もパソコンがないと仕事にならない状況です。

広報をはじめとする文章入力や各種文書処理は定型文書の利用が多いので、パソコンによる管理が行われていますし、資料作成には表計算ソフトの利用が欠かせません。特に最近では文書をメールで送付されることも多くなってきました。

また、今年度はホームページを立ち上げる予定です。卒業論文で習得した知識を生かしながらも、インターネット技術は日々進歩しているので、現在は最新のソフトについて再勉強中です。

こうした毎日で感じることは、大学で学ぶことも大切ですが、実社会に出てからも常に学びが必要ということです。しかし、日々の仕事に追われてなかなか難しいのも現状です。

だからこそ、後輩の皆さんには自分の目標に向かって悔いなく突き進んでもらいたいのです。学生時代こそ自分を磨くチャンスです。このチャンスを生かして何事にも積極的にチャレンジし、自分を磨き上げてください。